

『バンテージ・ポイント』

2008 年／アメリカ／ピート・トラヴィス監督作品

自分の目を見たモノだけが
真実だと思うのか？

会員 早乙女 朋宏 (67 期)

「バンテージ・ポイント」
スペシャルプライスで 9/2 発売
発売元：株ハビネット
販売元：株ハビネット
©2008 Columbia Pictures
Industries, Inc. and GH Three
LLC. All Rights Reserved.



1 荒廃した生活

敬愛する小峯健介会員から執筆のお話をいただいてから、私の生活は荒みました。朝起きて映画を観て出勤し、夕食を食べ映画を観てから就寝するという毎日、休む暇もありませんでした。来る日も来る日も、ポップコーン片手にコーラをあおりながら映画を観て、時にはデイトレーダーのように画面を2つ置いて映画を観るなんてこともしました。そんな不摂生な生活がたたったのか、髪は抜け、仕事は減り、大地は荒れ果て、今年も猛暑となりました。

そんな中でようやく選択したのが今回の作品です。

2 法律家としての葛藤

しかし、決まってからが、また地獄。映像を言葉で伝えることの難しさといった筆舌に尽くしがたいものでした。ヒヨッコで、しかも一介の法律家に過ぎない私が、芸術ともいふべき映画を言語化することに果たして意味があるのだろうか。ピカソの作品の外縁は説明できても、おそらく作品それ自体を言葉で表現することはできないでしょう。一文書いては筆を止めの繰り返し、そういう地獄のような日々が続きました。通勤電車で揺られながら推敲し、いい表現が思いついたらその都度メモを忘れない。それでも、いい表現が見付からず、独りの夜も過ごしました。なぜ、自分だけがこんなに苦しまなければならないのか。同じ年頃の弁護士が、酒にコンパと青春を謳歌しているというのに、私ときたら、来る日も来る日も男臭さが漂う薄暗い自室に閉じこもって、同じ映画を観る毎日。

しかし、そんな地獄のような日々をおくびにも出さず、酒を断ち、コンパを断り続けた結果、なんとか執筆作業を終えることができました。

私は法律家らしく、映画の説明を必要最小限にとどめることにしたのです。いうなれば、要件事実です。無能と笑う人もいるでしょう。だけど、私は多くは語りません。口を開いて映画を台無しにしたいからです。

3 有利な見地

作品の名は「バンテージ・ポイント」。スペインの都市「サラマンカ」のマヨール広場で起きた米大統領狙撃事件の真相を追うストーリーとなります。大統領を狙撃したのは誰か。一連のテロの犯人は誰か。その真相を、8名のキーパーソンの視点から紐解いていくというものです。8名のキーパーソンは、その時、何を見て、何を思い、どのような行動をとったのか。一見、無関係にも見える一人一人の行動が、少しずつ、しかし確実に一つの真実へと結びついていきます。

4 唯一の解決策

この映画を観て、私は思います。事件は多角的に見なくてはならないということ。自分の目を見たものだけを真実だと思っていけないということ。だから、実のところ、私自身、この映画の内容が、今述べたものでいいのか断言できません。ひょっとしたら、観てすらないのかもしれませんが。つまり、この映画の本当の内容を知るには、自分自身の目で観て確認するしかないのです。

ただ、何度も言うように、自分の目を見たものだけを真実だとは思わないで下さい。私たちに出来ることは、目を凝らし、耳を傾け、ポップコーンを片手に真実に迫ることだけなのです。そして、そのためには、まずレンタルショップへ急ぐことが重要でしょう。